子宮頸がん検査を受診される方へ

子宮頸がんはおよそ5～10年という期間を経て、異形成からがんに進行していくといわれています。
多くは、性交渉によるHPV(ヒトパピローマウイルス)感染が原因であるといわれています。
子宮頸部の細胞にHPVが感染しても、多くの人は免疫力で1～2年以内にHPVが消失します。
ところが約10%の人はHPVが消失せずに感染を持続してしまうことがあり、その結果、一部ががん化していく可能性があります。

＊性交渉の経験がない方は、検査の必要はほぼありません。
＊月経（生理）中は避けて検査をお受けください。
＊股関節の手術後など開脚に不安がある方はお申し出ください。

子宮頸部細胞診　子宮頸部の細胞の変化を調べます。

子宮頸部の細胞を採取して顕微鏡で調べる検査です。この細胞診により子宮頸がんのがん細胞だけではなく、感染によって変化し、がんに進行する異形成といわれる状態の細胞を発見できます。

婦人科診察（内診等）　骨盤内臓器を触診によって診察します。

婦人科診察における内診に関して、下半身の緊張が強い場合や病変が小さい場合は、診察が難しいことがあります。緊張により力が入ってしまうと、腟やお腹が固くなってしまい痛みを感じやすくなります。
内診をスムーズに受けられるよう、深呼吸をしてリラックスするように心掛けてください。

ＨＰＶ検査　HPV(ヒトパピローマウイルス)感染を調べます。（　オプション料金　税込み5,500円　）

細胞診と同時に採取した細胞が、子宮頸がんの原因であるHPVに感染しているかどうかがわかります。
子宮頸部細胞診とHPV検査を併用することで、細胞診による見逃しを「０」に近づけて前がん状態を確実に見つけることができ、早期発見につなげられます。

＊ 子宮頸部細胞診検査後１ヵ月以内であれば、検診時に採取した細胞でHPV検査を追加することができます。
　ご希望の方はお問合せください。（※広域検診を除く）

経腟超音波検査　子宮や卵巣の画像を描出します。（　オプション料金　税込み5,500円　）

子宮頸がん検査を受ける方でご希望がある場合は、経腟超音波検査を受けることができます。
子宮全体の様子や厚み、卵巣の状態を超音波で描出することによって、内診ではわからない小さな病変を見つけることができます。婦人科疾患がご心配な方には、経腟超音波検査をおすすめします。

＊ 子宮頸がん検診（細胞診）と同時実施となります。（後日、経腟超音波検査のみを受けることはできません）

*子宮を手術された方へ

子宮筋腫や子宮がんの手術は、病気の部位や進行度によりさまざまな手術方法が選択されます。

- 子宮全摘（子宮を全部とった場合）後は、子宮頸がん検査（細胞診）の必要はありません。
- 子宮体部を摘出し、子宮頸部を残す手術を行った場合（分娩時の大出血による緊急手術など）は残存子宮頸部から子宮頸がんが発生する可能性があり、検診の対象となります。

手術後に検診を受けるかどうかは、担当医とご相談ください。

北水会記念病院　健診センター
029-303-3005